

令和6年度第4回佐倉市指定管理者審査委員会会議記録

日時	令和6年9月24日（火）午後1時30分～午後4時30分	
場所	佐倉市役所1号館6階 農業委員会会議室	
出席委員	八木直人委員長、藏田幸三副委員長、木内寛之委員、近藤利砂委員、吉光孝一委員	
施設所管課	自治人権推進課	鴨志田課長、近田副主幹、橋本主任主事
	こども政策課	齋藤課長、長谷川副主幹、落合主査補
事務局	資産経営課	谷田部課長、橋本副主幹、實川主査補、金田主任主事
議題	1 佐倉市男女平等参画推進センター 個別ヒアリング【非公開】 2 委員協議【非公開】 3 佐倉市ヤングプラザ 個別ヒアリング【非公開】 4 委員協議【非公開】	

・議事開始前

事務局より個別ヒアリングの進め方について説明。
また、事前質問の回答を配布した。

1 佐倉市男女平等参画推進センター 個別ヒアリング

審査書類における疑問点を中心に委員会から質問し、申請団体から回答を得た。

①株式会社明日葉

（主な質問と団体からの回答） ○：質問 →：回答 ◎：意見

○職員の体制について、基本的に体制の変更はないか。

→変更はない。

○人員配置に専門性が必要だが、どのように引き継がれているのか。

→ノウハウを有している者をそのまま継続雇用する。常勤・非常勤については、常勤は館長、非常勤も同じメンバーのままである。専門性を有している職員を配置しており、役割分担を明確にしている。個々の能力を発揮できる体制にできることが強みである。

- パートの人も研修などで専門性を有しているのか。
→その通り。
- 施設長の「準社員」というのはどういう立ち位置か。
→いわゆる契約社員のことで、一年ごとの契約更新である。パートナー社員は時間給だが、準社員は固定給となる。
- 提案の中で動画アーカイブの視聴とあるが、内部で行われた講座を視聴可能とすることか。
→その通り。著作権の問題等あるが、講師の理解をいただきながら配信する。
- その場合、参加者個人の話などは省かれるのか。
→個人情報部分は除いて配信する。
- 既存のコンテンツの活用、そういったものとどう組み合わせて実施するのか。
→YouTube でこれまでの講座内容を配信したり、YouTube 専用のものの映像を配信する。
- 家からライブで参加できるものなどもあるのか。
→環境上は問題なく参加できる。
- 費用はどのくらいかかるか。
→配信料なので通信費程度である。映像加工は内製化を図っているのではほとんどかかっていない。本社にもサポートできる体制がある。
- SNSの活用について、「SNSによりタイムリーに施設情報を配信」とあるが具体的にどのような計画で配信するのか。
→現状はFacebook と X を使っているが、今後若い世代向けにインスタを利用予定。できれば毎日配信していきたい。
「今日は何の日」というコンテンツを持っており、それに併せて配信し、頻度を高めていく。
- 今の更新頻度はどの程度か。
→Facebook は年に5～8回くらい、講座に合わせて更新している。
また、インスタとFacebook は元の会社が一緒なので、ここは連動して配信していきたい。

- コンテンツとしては同じものを出すということか。
 - まずは配信していくことが重要と考えており、その上で徐々に加えていきたい。
 - 反響を見ながら内容を変えていきたい。

- 具体的に、フォロワーはどのくらいを目標値と考えているか。
 - 現在2桁なので、まず1,000件を目指していきたい。

- ◎メディアごとに特性があるので、内容はそれぞれ変えたほうが良い。

- ミーティングスペース内に、キッズスペースや個別ワーキングスペースの設置を提案している。現施設の広さで可能か。
 - 現地で実際に寸法を図り、配置ができると考えている。
 - キッズスペースは4㎡ほどなので家族2組くらい、コワーキングは最大3スペース設ける予定。
 - 利用者がどのくらいのスペース使うかニーズ調査して、2～3ブースの設置を考えている。

- 施設の認知度を上げる取組、今までリーチできなかった方への取組どう考えているか。
 - まずはSNSの活用を考えている。アカウントを増やすことで広く周知する。独自事業の出前講座、施設の案内含めて周知の機会を活用していく。

- 施設の利用の少ない時間帯の利用率向上についてどう考えるか。
 - 個別ブースの設置をすることで、学生やビジネスパーソンなど新たな顧客獲得を狙いたい。常に施設が稼働している運営体制に切り替えていく。

- 今まではそのようなスペースはなかったのか。
 - 個別ブースとしてはなかった。みんなで使えるコミュニティスペースのみ。

- 貴社は指定管理で学童や、佐倉市及び他市でも男女平等参画を実施しているが、運営することによって佐倉市の施策が変わった部分や、進んだ部分は何かあるか。
 - 当社は児童館の運営が最も多く、図書館や男女平等も増えてきた。
 - 当施設で実施した学校訪問で、今までできなかった事業を実施すること

ができた。その結果、モニタリングのアンケートで当施設の認知度が約3%上がった。

○市民の意識が変わったという認識はあるか。

→令和2年から管理運営しているが、来館者数が令和2年当初は約1.1万人、令和5年は約2万人と年々利用者が増加している。
今後は男性相談、SNSの実施により広げていきたい。

○現状の課題は何か。

→男女平等参画というのは抽象的で浸透しにくい。
アンケートの中で、自分には関係ないという意見も多い。
一人ひとりの家庭や生活に直結しているということを伝えていきたい。

○理想として、どのような形で男女平等参画が佐倉市全体にいきわたってけばよいか。

→地域によっては、女性が家事や介護などの負担を強いられているという印象がある。男女平等参画を周知していくことで、女性の応援になればと考えている。

○保育士の配置がないが、どのようにキッズスペースに対応するか。

→親が付き添うので、こちらで人員配置は予定していない。
受付近くに置くことで常に安全管理する。

○親が相談している時に子どもを見ている必要があるのではないか。

→事業開催の場合などはスタッフを配置する。

○スタッフはある程度経験がある者ということか。

→その通り。

○災害時の初期対応としてどのような指揮命令系統で利用者の安全を確保するか。

→ショッピングセンター利用者が避難してくることも想定していることから、まずは一次対応として施設内に誘導、安全を確保する。
その上でどれくらいの人が避難しているのかを市に連絡して、その後の支持を仰ぐ。

○逆に利用者がどこか別のところに避難することも考えられるが、その辺り、

ショッピングモールの関係者と話はしているか。
→協同組合と協議を進めていくべきと考える。

◎有事の際、指揮命令ができる人が必要であり、その方の指示に従って避難してもらわなければならないか。

○男性のための相談・法律相談はどのような内容を想定しているか。
→前提として、男性からの相談は少ないため、男性の相談間口を広げていきたい。
男性相談に関しては、共働きが増えたことによる夫婦関係の悪化、育児で疲弊した妻への対応などの相談、または性自認の相談などが考えられる。まずは初期段階での対応、相談を受けられるようにしたい。

○本施設の指定管理者は、佐倉市男女平等参画基本計画【第4期】の実現に向けて、その一翼を担うことになる。この施設が、特にどの部分で役割を担うのか、またそれに対応する具体的な事業は何か。
→本施設は男女平等参画推進の拠点施設であり、こちらからの提供は当然だが、それを更に広げていく必要がある。能動的に地域に出向いて「つなぐ」ことを行っていく。また、環境を整えていかなければならないので、個別ブースなどの提案をしていく。

○地域に出向くとは具体的にどのようなことか。
→学校や幼稚園、企業に出向く、また要望があれば専門家の仲介を行う。企業、学校からご意見をいただいて、相談をさせていただく。

○周知や広報はどのようにするか。
→SNSの活用や、営業活動をする。

○それは誰がするのか。
→現地スタッフのメンバーが行う。

○現場の人員が足りなくならないか。
→その場合はシフトを厚めに組む。

○これらは新たな取組か。
→一部今までやっていた活動もあるが、今後は間口を広げていく。

- 佐倉市男女平等参画基本計画【第4期】の指標目標で重点事項の中で「×」がついているものの対策を考える必要がある。男女平等参画推進センターとして取り組むべきものを認識していれば教えていただきたい。
→改めて、今後の指定期間5年間で履行チェックをして改善していきたい。
情報力をもう少し活発化させて知っていただく、事業に参加いただくようにしたい。

- ◎提案書、受け答えともに比較的抽象的な内容が多い。市担当課と連携して、「×」や「△」を「○」にする取組をお願いしたい。

- 相談事業は、金曜日以外の相談は無いのか。
→女性のための法律相談は仕事で来られない方のために土曜日や水曜日などに実施している。

- 弁護士の方が来られるのがこの曜日なのか。
→この曜日に来られる弁護士に来てもらっている。

- 会社帰りの方など時間帯に偏りがあると思うが、現状どうか。
→お勤めの方は、第3金曜日は午後3時から8時までとしている。
今後は夜の実施も検討したい。

- ◎リピーターの方もいると思うが、新しい方に認知してもらうためにどういう受け入れ方をするのか。またそのための人員配置や企業への営業など、いろいろ検討していただく必要がある。

- ◎コロナを経験して、オンラインのニーズが高まっている。窓口に来てもらう想定だが、SNS等を活用してオンラインでも相談できると便利。
立地を活かしてというだけでなく、オンラインも進めていただきたい。
→対面だけでなく電話相談もしている。
SNSも今後、検討したい。

- ◎オンラインは他の自治体でも検討されているが導入が進んでいない。動画を録画される懸念などセキュリティ面の問題があるので、対面や電話が多い。前向きに検討していただきたい。

- ◎SNSでアンケートを取るとそういう声が出るのでは。それをいかにしてこちら側から提案していくかではないか。

2 委員協議

個別ヒアリングに基づく、所感報告や意見交換等を行った。

①施設所管課の所感

- ・疑問に思っていたことについては概ね解消した。
スペースの問題など、現地を確認しているので問題ないを考える。
各事業についても、ある程度の裏付けがあるので問題ないと思うが、最後の出張講座について、各施設のスタッフが営業に周るということだが、申し込みが少ない状況で、上手くいくのかという疑問は残る。

②主な意見

(○：委員質疑 ◎：委員所感 →：施設所管課・事務局回答)

- ◎あまり期待した回答は得られなかった。施設の維持管理運営には一定程度実績があるが、次の段階で今回示された内容がどう実現されるのかを市として注視してほしい。
公共性の課題認識、市の施策をもっと理解してほしい。情報発信についても突発的な回答であり、本部のサポートがないと実現は難しいだろう。契約社員に中長期的な取組を望むのは難しいので、本部の積極的な関与を求めているといけな。
- ◎同じような印象を持った。運営そのものについては問題ない。新しい企画もよい。SNSを利用した情報発信について楽観的な印象を受けた。毎日発信したからといって誰かが見るわけではないだろう。
- ◎この事業自体がかなり難しい。現時点でやり切った感がある。指定管理者に求めるというより市が協力体制を密にしてやっていかなくてはいけない。
駅に近く、商業施設内という場所だから出来ること、出来ないこと。地域差がある中で、あの場所で広めることが十分できるのか。あの施設を管理するという視点では限界なのだろう。
- ◎この施設は指定管理ではなく直営でやるべきだろうと感じた。指定管理者としては精一杯やっているのだが、本部と現地スタッフの説明にギャップがある。
キッズスペースの設置について、親が見るならセンターでなくてもよい。あ

の場所につくる理由は、相談や書籍を調べる間に見てもらえることにあるのではないか。

災害時にあの規模の施設で避難するのは大変なことである。まず施設内に避難させるのではなく、利用者を施設外へどう避難させるかである。指揮命令系統について話し合われていないと感じた。

市側がいろいろな視点からこの施設の推進に関して注力していかないといけない。

◎人員体制について、委託料の規模から考えるとそんなに凄ことができるわけではなく、現状維持が精一杯と感じる。プラスアルファで出張講座をするのが限界だろう。

あの場所の人流を捉えるだけでも十分訴求効果はあるし、あの人数体制でもできる。

全体として、この規模で運営していく分には事業は継続できるだろう。後は市がどう活かして欲しいかによる。

【委員長】

当委員会で指定管理者候補者として適当と認められる団体として、株式会社明日葉を推薦することとする。

3 佐倉市ヤングプラザ 個別ヒアリング

審査書類における疑問点を中心に委員会から質問し、申請団体から回答を得た。

①シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社

(主な質問と団体からの回答) ○：質問 →：回答 ◎：意見

○人員配置・雇用計画の資料では契約社員3名となっている。一方で収支計画書の中の人件費では常勤の業務主任が1名、主任補佐が3名となっているがどちらが正しいのか。

→現職の職員1名を契約社員に昇給させる予定である。

○人員配置の方の資料は今後変わるということか。

→その通り。

○業務主任担当者とは誰のことか。

→現施設長である。

○独自事業の窓口相談の対応、フローはどのようにするのか。ルームさくらとの連携はどう考えているか。

→相談内容について事件性があるもの、緊急度高いものは警察等と連携する。それ以外の内容について現場で対応に困った場合、キッズサポートチームの方で解決を進める。

○今の話は本社との連携だと思うが、市との連携はどうか。

→市の機関とも連携する。まずは子ども達への普段からの声掛けで悩みや相談を聞いて、相談先へつなげる。ルームさくらへの場合もあるし、緊急性が高い場合は警察や児童相談所などもあり得る。

○市などの観光施設との連携はどうか。

→昨年、県立小見川青少年自然の家と連携してバス遠足を企画し、カヌー体験やカレー作りなどをした。
他の施設からヤングプラザに職員を呼びイベントをしたりもした。

○今後も継続して取り組むか。

→その見込み。

○同窓会の運営、独自事業には載せていないがどのように実施するか。

→ヤングプラザの利用者である小学生から高校生に声掛けをして、共有スペースを貸して同窓会という形で開催することを計画している。

○詳細はこれから検討するのか。

→その通り。

○独自事業の若者の就労支援について、なぜヤングプラザで実施しようと考えたのか。対象者は若者といっても幅がある。ターゲットはどの層か。

→ヤングプラザを利用している高校生やこの場所を卒業した方々を想定。
就職支援として、ジョブカフェ千葉と連携したセミナーイベントを告知・紹介も考えている。

○そもそも、何故実施しようと思ったのか。

→施設を利用してきた小学生が高校生になり、その流れで利用している現状を踏まえ、その先も何か役に立てればという思いから就労支援を企画した。

- 若者の就労支援というと引きこもりの方は対象外か。
→現時点ではないが、相談窓口でまずは対応した上で、今後連携できるようであればそちらも連携進めたい。

- 修繕について伺いたい。綺麗に使う、アンケートに書かれたら修繕するなどやや消極的に思えるがどのように考えているか。
→日々職員が巡回して3段階の緊急性ランクをつける予定。
1. 早急に修繕が必要、2. 半年以内に必要、3. 1年以内に必要。
担当課と相談しながら修繕を進めていく。

- 巡回するスケジュールは決まっているのか。
→毎日、週1、月1に今後仕分けをする予定。

- 今、優先度高いことは何か。
→学習室の電気が暗く、子ども達が勉強する上で不便。
今はLEDで対処しているが、ブラウジングの方で勉強したい子どももいるので、そこに関してもLEDを買って準備しているところである。

- その次は何かあるか。
→今現在特にない。

- ヤングプラザは子ども達の居場所として、サードプレイスとしての役割を果たす。課題を抱えた子ども達の自立を促すために、どのようなことを考えて実施しているか。また、何か特化していることはあるか。
→子ども達が主体的に関わるイベント企画を実施している。
ヤンプライズ、高校生主体のイベントの実施、その他小学生の主体性も今後考えている。年に1回バス遠足を実施しているが、どこに行きたいか自分達で企画を考えてもらって実施したい。

- 周りにいろいろな公共施設がある。市内の施設や公共機関との連携についてどう考えているか。
→日蘭協会と連携してオランダのことを学ばせていただく体制を考えている。イベントにこちらも参加して、学習や地域活性につながればと思う。

- ◎学校で学ばないようなことを学べる場でもあると思うので、いろいろな視点から、子ども達が主体的に取り組める施設となることを期待する。

- 高校生で心に問題を抱えている子は一定数いるのか。
→そのような子もいる。
- 事業計画書の中の「児童福祉等の業務に携わった職員が対応する」という文言について、この職員はどのような職員か。
→児童指導員認定資格、または保育士、社会福祉関係の資格を持っている職員を配置する予定である。
- 現状はいるのか、新たに配置するのか。
→新たにそのような職員を配置する予定。
- 相談者が来た時に、キッズサポートチーム、警察等につなぐとの話だが、緊急対応として教員資格を持っている人とか現場経験がある人が必要になると思うがどうか。警察等につなぐにしても、経験の有無で対応が全く違うだろう。
→ここには社会福祉関係職員を配置するとしているが、次年度以降、教員免許を持っている方を加えることを検討したい。
もしそれが難しかったとしても、本社で研修を行っているので、そういう子どもが来た時に対応できる体制は取っていききたい。
- ◎研修だけだとなかなか難しいと思うのでぜひ検討いただきたい。
- 事業計画書の職場体験やインターンシップの記述について、具体的にどのように実施するのか。
→病院内に売店を運営しており、そういった施設での職場体験を進める。
ヤングプラザからなるべく近いところで実施したい。
- 体験を通して子ども達に何を求めるか。
→働くことによる大変さ、難しさ、喜びを勉強してもらおう。
- 良い試みだと思うがニーズがマッチしないと嫌な体験になってしまう。子どものニーズとのマッチングが必要ではないか。
→いくつか選択肢、候補をあげて決めていきたい。
- あくまで対象は社内か。その他の市内の機関との連携を図るわけではないのか。

→遠いとなった時には市内の施設とも相談をさせてもらって実施したい。

◎いろいろ連携されると話があったが、例えば観光イベントで協力するのも職場体験になるだろう。もっと広げて考えてもらった方がよいのではないか。

○ヤングプラザは若者向けの施設だが、ホームページのデザインが古いように見受けられる。SNSなどの情報発信について、状況はどうなっているのか。

→SNSは現状、Xとインスタを運営して、施設の情報やイベントの情報等を発信している。

◎Xはログインしないと見られない、広く広報していることになるのかどうか。

○小学生、中学生、高校生といった年代を縦につなぐようなイベントは考えているのか。

→ヤンプラフェスタで様々なお祭りのイベントを開催、その中で世代間交流をしている。

4 委員協議

個別ヒアリングに基づく、所感報告や意見交換等を行った。

①施設所管課の所感

- ・今回の申請は現在管理・運営をしている現指定管理者のみ、新たな提案はあるが新鮮さを欠く印象を受けた。
- ・安定した施設運営はできると思うが、今後、「こどもまんなか社会」を目指していく中で、このヤングプラザを子どもの主体性を育てる支援拠点として発展できるような施策がもっとあるとよかった。
- ・若者の就労に関する事業を新たに行う点は評価する。
- ・今後も、中学・高校生世代を中心に、自由な空間、居場所として子ども達が主体的に活動できるような施設の運営に尽力いただきたい。

②主な意見

(○：委員質疑 ◎：委員所感 →：施設所管課・事務局回答)

(主な意見)

◎施設が老朽化しており、出来ることが限られているという前提で言うと、安定的に運営している実績、個人情報のプライバシーマークも持っていることなどから、適切な運営が期待できる。

個別事項の提案については、一応書いてあるという印象。今後しっかりと実現していけるよう、積極的に市から支援してもらい必要がある。

◎全体的な印象として、現状維持していくのであれば問題ないだろう。計画書からは読み取れなかったが、現場のニーズからずれているのではないかという印象があった。

若者の就労支援の目的がよく分からなかった。それをやることでどういう効果を生むのか、どういうビジョンで実施しているのか。

施設の老朽化の件もあるので、現状維持で続けてもらうことが優先という視点で評価した。

◎施設としては、子どもの居場所として必要性はあるが、児童館の域を超えない。何故ヤングプラザがあそこにあるのかがあまり見えなかった。

利用する年代が幅広い割には、ただの遊び場になっている印象。

企画立案させてその取組をさせるということだったが、市の施策の中で効果を発揮するのは難しい面がある。屋内施設の限界というのもあるのだろう。

外に出る企画もあるが、少し違う方向にいつてしまっている。同じ人しか利用しなくなっている印象もある。

施設の管理自体に問題はないが、もう少し企業としての異なる分野との連携や、地域なども巻き込んだアプローチが欲しいと感じた。

◎ヤングプラザの役割とは何かが良く分からなかった。各世代の課題が絞り込めていない印象がある。まず相談を受ける体制が整っているのかどうか。

◎施設の意義のところで役割が大きく二つに分かれていて、こうなってしまうのもやむを得ない。一つは施設を管理する業務、これは概ね問題ないだろう。これに付随した相談業務、受け身の提案であり、やや物足りない印象ではある。

その他の職場体験やインターンシップなど、そもそも方向性が違って、ここに来る子がそれを求めているのか。

ここを利用する子どもがいる、それに対する適切な管理をするというのが基本業務で、それにプラスアルファでサービスができる。

プラスアルファの部分については受け答えに現実性があまりないが、大きくマイナスに評価するほどでもない。

【委員長】

当委員会で指定管理者候補者として適当と認められる団体として、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社を推薦することとする。

(事前質問の再確認について)

申請団体から提出された事前質問の回答について、より詳細な内訳を確認するため、再度、審査結果取りまとめ前に回答を求めることとなった。

以上